

## 学校訪問を機に仁尾中生の心の進化をねらう

9月13日(金)は要請による学校訪問日でした。三豊市教育委員会が、県教委(西部教育事務所)に要請を行い、その双方の訪問を受けて、学校経営や教育活動について指導・助言をいただく日です。私たちは学校訪問の時だけでなく、日常的に教育委員会の管理・指導を受けながら教育活動の充実に資していく立場にあります。また、三豊市からは教育への期待を託されて財政面等での多大な支援をいただいています。それ故に、学校の取組をしっかりとお伝えし、その様子や子どもたちの育ちをつぶさに見ていただき、その上で私たちに直接指導をいただける重要な機会と考えています。そこで、当日に向けた準備の一環として、①9月3日(火)から清掃強調週間を設ける、②9月8日(日)に香川掃除に学ぶ会とタイアップして、トイレ掃除を行う、③9月12日(木)13日(金)の朝、落ち葉集めの3つの活動を行うことで、仁尾中生のさらなる心の進化を期待しました。

日本を美しくする会の元相談役である鍵山秀三郎さんの言葉を用いて、この活動の価値を説明します。

私は毎日の掃除を通じて、積み上げることの大切さを体感し、学ぶことができました。人様がたまにやることを、しょっちゅうやる。また、人様がときどき気にかけることを、いつも気にかける。そういう考え方で掃除を続けてきました。

トイレ掃除には、①謙虚になれる…才能があっても、傲慢な人は人を幸せにすることはできない。第一条件は謙虚であること。(下を向いてトイレを掃除する形そのものが謙虚な姿)、②気づく人になれる…成果をあげる人は無駄がない。無駄をなくすためには、気づく人になることが大切。気づきを引き出してくれるのがトイレ掃除。③感動の心が育まれる…自分も感動し、周囲の人にも感動を与えるような生き方をしようと思えば、自分の手と足を使って、さらに身を低くして一生懸命に取り組むこと。④感謝の心が芽生える…感謝するから幸せになれる。トイレ掃除をしていると、小さなことにも感謝できる感受性豊かな人間になれる。⑤心を磨く…心を取り出して磨くわけにはいかないので、目の前に見えるものを磨く。特に人の嫌がるトイレを綺麗にすると心も美しくなる。の5つの効果があります。

最後に、掃いても掃いても際限のないのが落ち葉です。それでも、一日一度は掃く。この姿勢が大事です。同じ落ち葉でも、昨日から落ちていた落ち葉は単なるゴミで、品がなく汚いものです。一方、今掃いた後に落ちた落ち葉は上品で風流なものです。自分が掃いた後に落ちた落ち葉を見て、「綺麗だなあ」と思えるような感受性豊かな人間でなければいい人生は送れません。

子どもたちに理想的な人物として紹介したドジャーズの大谷翔平選手は、高校時代、練習前にトイレ掃除をしていました。監督の「グラウンドの一番高いところに立つ人間は、人が一番嫌がることができなければいけない」という教えがあったそうですが、今でもグラウンドのゴミを何気なく拾うなど、行動は習慣化しています。『心が変われば態度が変わる。態度が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。運命が変われば人生が変わる』という有名な言葉があります。自分の心を磨くことで、自分が成長することにつながっていき、最終的には自分の人生が変わることにもつながる。本校がめざす生徒像にある「豊かな心」「自立型人間」にも、心を豊かにすることによって態度、行動、習慣、人格、運命、最後は人生までも変えてほしいという願いが込められています。たかが掃除ではありますが、自分の心を磨き鍛える価値のあるものとして大切にしてほしい時間です。

